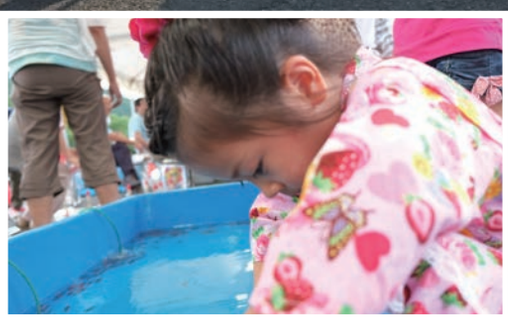
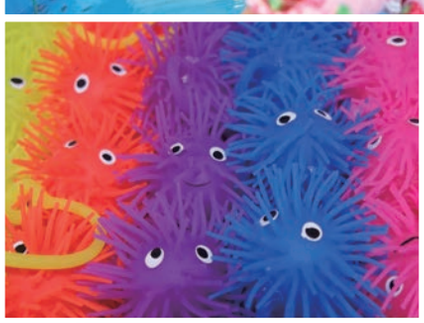
広報

わ か さ

2013.10 No.102





夏は、こども

今年の夏も、厳しかった。でもどんなに暑い夏だって、子どもたち

1 北川でザブ～ン！

8月6日から8日の3日間、3回にわたり、民生児童委員の児童部会19名が、町内の児童クラブの小学生たちと川遊びをしました。

上中・三方・三十三の3児童クラブがそれぞれに1日1時間半ずつ夏の北川を満喫。

雨の後の川は少し水量が多く、ライフジャケットを着て流れに身を任せると、即席の水流下りに。

委員たちはロープを背に、流れてくる子どもを待ち構え一人ずつ抱き起こします。

石ころで歩きづらい川底にも少しずつ慣れ、網　を片手に生き物探しに励む子、飽きずに流れる子、河原や岩の上でひと休みの子。

大勢の大人が見守るからこそできる豪快な遊びの風景でした。

2 KODOMOラムサール

8月9日から8月11日の3日間、三方青年自然の家を拠点に、「ESD（持続可能な開発の教育）のためのKODOMOラムサール」が開催されました。

水鳥と湿地の保護に関する国際条約「ラムサール条約」の基本理念の実現を目標に、湿地と人間とのかかわりについて調査研究、普及啓発活動を行っているＮＧＯ（国際協力に関わる非政府組織）「ラムサールセンター」が主催し、全国5か所のラムサール条約に登録されている地域から、18名の小学生が参加して行われ、若狭町からは三方小学校の5年生4名が参加しました。

１日目は、開会式オリエンテーションの後、久々子湖でシジミ採りの体験を行って三方五湖について学習し、夜には田んぼの中に鯉やフナなどの稚魚を放して昔の田んぼを再現して作った「ゆりかご米」の発表を行いました。

遠くは北海道釧路湿原からの参加者もあり、子どもたちは初めは緊張した様子でしたが、体験活動やレクレーションゲームを行う中で徐々に緊張もほぐれ、仲良くグループ学習を行っていました。また、翌日には鳥浜の水田魚道の見学やレイククルーズ、丸木舟体験なども行い、三方五湖での環境活動について知識を深めました。

王　国　！

には楽しみいっぱい！キミだけの夏の思い出、できたかな？？

トン・カン・カン！！

8月10日、「木工教室」が西田公民館で行われました。

これは、西田公民館が「夏休みこども教室」として二州農林部から講師を招いて毎年行っている事業で、今年は梅の里小学校の児童13人が参加しました。

スライドを使って、森林が水をたくわえたり山を守っていることなどの説明を受けた後、中高学年は本立て、低学年は木切れのオブジェを作りました。

のこぎりを使うのは思ったより難しく、はじめの切れ込みを入れるのに苦心していましたが、板を押さえる手の力加減が分かるようになると、膝を使って押さえたりしながら少しずつスピードアップして行き、それぞれ1時間前後で完成することが出来ました。

毎年参加している6年生の中西柊介君は、釘を打つ姿も慣れたもの。「去年より簡単！」と、一番乗りで仕上げていました。

5年生の渡辺治紀君は「道具は家にもあるけど、作る機会がない」と、ここで作るのが楽しい様子でした。本立ては家で教科書を立てて使うのだそうです。自分で作った本立ては愛着があるでしょうね。

自然の中で合宿だ！

「田舎とはいっても、なかなか自然の中で遊ぶことは少なくなった。せめて、自然を満喫できる一日を子どもたちに過ごさせてあげたい」と、10数年前から南前川の藤本佳志さんが行っている夏休み合宿。今年の開催は8月10日、明倫小学校の児童9人が参加しました。

午前中は串子川で川遊びをし、午後は佐久間キャンプ場で火を起こし、飯ごうでご飯を炊いてカレーを作って食べ、夜は集落センターで一緒に寝るというスケジュール。

藤本さんを囲んだ子どもたちは、大きな木切れでは火がつかないのを体験し、よく燃える木の皮や新聞を使って、少しずつ火を大きくしていくなど、自分で考え、失敗し、学んでいくということを繰り返しながら、生活の基本を学んでいました。

この合宿は、年間を通して活動している取り組みの一環で、自分たちで採った山菜や作ったものを町内の催しで販売するなどして、合宿に必要なお金も準備しているということです。

子どもたちが米を洗ったり包丁を使ったり薪をくべる作業は、見ている方がハラハラすることばかりでしたが、根気よく指導する藤本さんや、手伝っている児童のお父さんお母さんのまなざしが印象的でした。

5・6

そうめん来たっ！

8月18日、明倫地区の子ども大会が明倫小学校で行われました。南前川、相田、藤井の3集落の子どもたちが集まるイベントで、今年が初めての開催となりました。参加者は集落名、屋号、名前を書いたガムテープの名札を付け、スムーズな交流に役立っているようでした。

大会スタッフは、「これまでは3つの集落がこのような形で交流する機会があまりなかったので、今日が歴史の始まりです」と話していました。

会場の校庭には、凧揚げや竹馬、竹トンボ、缶ぽっくりなどで楽しむ子どもたちの声が響きます。

前日に切り出したばかりの竹で作られた流しそうめんに、そうめんが流れてくると、子どもたちは「みてみて、いっぱい取れた！」「おいしい！」と、歓声を上げて喜んでいました。

くるりトン・・くるりトン・・

8月13日から15日、三宅集落では毎年六斎念仏が各家庭を回ります。今年も小学高学年男女と中学男子と青年が、7月末から毎晩練習を重ね、お盆の3日間をかけて各家の仏壇の前とお寺で踊りました。

6人ずつが太鼓を手に輪になり、大人が吹く笛と鉦（かね）に合わせて太鼓をたたき、立ち座り回り。くるりトンくるりトン…カンカンカン…。大きく開け広げられた各家の座敷を舞台に、子どもたちが頭を垂れて真剣なまなざしで踊る姿は、仏に仕えるようでさびしげで、それをかき消す小気味良い太鼓と鉦の音が重なり、見ているこちらの心を揺さぶって、亡くなった方をしのぶ静かな気持ちになりました。

2週間にも及ぶ練習は、子どもたちにとっては苦痛でもあり楽しみでもあるそうですが、歩きながら中学生から漏れる言葉には、文化を担う重みと責任感が感じ取れました。

7 木の声に耳をすませて…

木削り名人の滝本ヨウ先生による「夏の木削りワークショップ」が、8月17日に縄文博物館で開催されました。

今回は、三方近辺でしか出土しない“縄文時代の土埋木(どまいぼく)”を削るいう貴重な機会です。

「“木削り”は木が主役。木の声を聞いて削っていけば、引っかからずスムーズに削れるんですよ」と、先生。各自、選んだ木を削り、サンドペーパーで仕上げていく参加者の眼差しは、真剣そのもの。

参加した子どもたちは削り終えた木をまじまじと見つめ、「学校で使う道具とは違う、見たことないナイフで削る作業が楽しかった。またやりたい」と話していました。

8 おじいちゃんから教わろう！

8月17日、「気山・上瀬区夏休み子ども大会・あなたの手づくり作品展」が気山公民館で開催されました。

この催しは、今年5月に発足した「気山・上瀬地域づくり協議会」の活動の一環で、今年初めての試みです。

スタッフは、「前日から準備が大変だったが、約200人の参加があり盛り上がってよかった。両区はお互い初めての形での交流だったが、スムーズに進んだ」と話していました。

今回は、“おじいちゃんと子どもたちとのふれあい”がテーマ。子どもたちは紙で帽子を作ったり、竹馬やコマ回しの手ほどきを受けたりと、昔の遊びに興味津々な様子でした。

また、大人の手芸作品などの展示も行われ、会場は多くの人でにぎわいました。

9 オンリーワンのアクセサリー♪

歴史文化館の「まが玉アクセサリー作り」が8月17日に開催されました。この催しは、歴史文化館のサポーターグループが企画したもので、毎回大勢の参加者が自分だけのアクセサリーを完成させています。

同グループは、展示案内、古墳出土品のマーキング、古墳ジオラマ制作など多彩な活動をしていますが、この催しも活動の一環として始めました。

参加者は渡された白い石をコンクリートブロックや石、紙やすりで削って思い思いの形にして行き、最後に小さな飾りと一緒にひもに付けて、ネックレス、ストラップに仕上げました。

2回目の参加の瓜生小2年の中塚ひかりさんは、今回は中学3年のお姉ちゃんと一緒に参加しました。お姉ちゃんは「結構難しかった」と話してくれましたが、それとは対照的に、「2回目で簡単だった」と満足そうでした。

10

きもだめしでヒンヤリ

8月12日の夜、縄文博物館で「ナイトミュージアム～親子できもだめし～」が行われ、約50人が、夜の縄文博物館を楽しみました。

この行事は博物館の中を歩く親子にきもだめしを楽しんでもらおうという企画で、今年で4回目。

一階のシアターで怖い物語を聞いてからスタートし、電気の消された薄暗い展示会場を歩く途中、マネキンが動いたり、頭だけの人形が落ちてきたり、動かないはずの展示物が動いたり…。これらの仕掛けは縄文博物館や町職員有志が仕掛け人となって準備したものでした。

参加した親子は、マネキンの頭を乗せたラジコンカーが近寄ってくるのに感心したり、人が展示物になりきる姿に驚いて見上げたり、時折叫び声をあげながら楽しんでいました。

歩こう～歩こう♪

8月22日から24日、第14回チャレンジウォークが行われ、町内の小学生24名と、中高生のジュニアリーダーや町職員などが参加しました。今年は若狭町中央公民館から南越前町の今庄365スキー場までの約55kmを3日間かけて歩きました。

22日は、美浜東小学校までの約20kmを歩きテントで宿泊。23日は美浜町から関峠を越えて敦賀市の咸新小学校までの14kmを歩いて体育館で宿泊。24日は今庄365スキー場へ向かい、そこからはバスで三方石観世音まで移動し、ゴールの若狭町中央公民館まで歩きました。

ジュニアリーダーの励ましのもと、児童たちは数種類ある大きなかけ声をかけ合ったり、歌を歌ったりしながら、炎天下の中を一生懸命に歩いていました。

大人の足にも厳しい時速4㎞。きらきらと光る三方五湖や金色の田園風景の中を、団長が掲げるオレンジの旗がなびく。美しい景色にも力をもらいます。

コース沿い集落の方々は、参加者が通過すると「いってらっしゃい！」「がんばって！」と笑顔で励ましの声をかけていました。

11

言葉が通じなくてもＪＯＹ

王貞治さんが組織委員会会長を務め、世界 15 か国から 300 人を超える少年少女が参加して嶺南各地で行われた世界少年野球大会。交流行事も連日行われ、若狭町ではグランドゴルフ (以下ＧＧ) が若狭テクノパークで行われました。

少し日差しが柔らいだ８月 24 日。ＧＧ協会の会員と、町内の野球チーム、三方レイカーズ・上中ＪＢＣの 19 人が首を長くして待つ中、大韓民国と中華台北の選手 30 名がバスで到着。開会式でルールを聞いた後、３か国混合で７チームに分かれてゲームを楽しみました。

各チームに二人ずつついてスコアなどの整理をするＧＧ協会の会員が、言葉が通じず悪戦苦闘する姿を尻目に、子ども達は大喜びでバットをスティックに替えて振り回し、ボールが宙に浮いて飛ぶほどのはしゃぎよう。大きな歓声があちこちで上がっていました。

参加した町内の参加者は「言葉は通じなくても楽しい」と、海外の参加者との交流を楽しんでいました。翌日の交流試合は雨で中止となり、GG が唯一の参加事業となりました。

まいっておくれ～カンカンカン

８月 23 日から 24 日の午前中にかけて、若狭町の各地で地蔵盆が行われました。これは地域を見守ってくれているお地蔵様に感謝し、子どもの無病息災を願う伝統行事です。地蔵菩薩は子どもの守り神として古くから信仰されています。この日のために「化粧直し」した地蔵を祭ります。

玉置集落は、“ 下庄 ”“ 中庄 ”“ 上庄 ” の３つの区域に分かれています。集落の小学生がそれぞれの地蔵の前に集まり、鐘を叩きながら「参っておくれ～参っておくれ～」と呼びかけます。

お参りしてくれた人々には、「ありがとうございました」と丁寧にあいさつしていました。

将来は、何になる？？

三方五湖青年会議所が８月４日に開催した「ＪＣスクール 2013 三方五湖キッズタウン～僕たち私たちの未来～」。この催しは、小学生に実際の仕事の一端を体験してもらおうという企画で、銀行、美容室、写真館、建設業、助産院、消防署など企業 20 社が協力して美浜体育館を会場に行われました。

体験は、参加者がやってみたい職場を決めて一社当たり 45 分で体験し、会場内の通貨 JC で 100JC ～ 200JC の賃金を受け取り、開始時に一人ずつ与えられた 500JC 入りの通帳に入出金し、300JC ショップでは貯めた JC でおもちゃが買え、昼食の弁当も 100JC で買うという仕組み。

参加した子どもたちは、１時間ごとに職場を変えながら、緊張した面持ちで仕事に取り組んでいました。

みそみ納涼まつり

初めて行われた「みそみ納涼まつり」。三十三地区地域づくり協議会ふれあい部門が、4月から会議を重ね開催しました。

8月24日午後5時。B＆G海洋センター前に設けられたやぐらと地元からの出店テントの周りには続々と人が集まり、夕闇が迫る頃には、踊りの輪と座って歓談する人の輪が出き賑わいを見せました。

協議会役員さんは「何も分からない状況からスタートし、開催日前夜の豪雨にも心配したが、当日の人出を見てとにかく嬉しい」と話してくれました。

ステージには東黒田のスコップ三味線が登場し、それに合わせて踊りの会の方々が踊り始めるという場面も見られ、それぞれの人が持ち味を生かした催しとなっていました。

集まった人達も「近所でも顔を合わせる機会が少なくこうして会えるのはうれしい。若い人も地域に愛着が持てるようになるのでは」と開催を喜んでいました。

鳥浜区納涼祭

8月16日の夕暮れ時から始まった鳥浜青壮年会主催の「納涼祭」では、約600人の人が涼を求めて集まりました。

この催しは、約30年前に鳥浜区に青壮年会が発足した当時、集落を盛り上げるために会としてできることはないかと考え、現在まで受け継がれて来たものです。鳥浜酒造の横を流れる川がハス川だった当時、初めて灯籠流しを始め、太鼓踊りが加わり、ハス川が今の流れに変わっても、毎年欠かさず行われてきました。最近では集落の人だけでなく、近隣の集落の人や、町外からも訪れる人が多く、鳥浜集落の人でも「見たことがない人がたくさんいる」というほどの賑わいでした。

鳥浜貝塚公園の中央に設けられたやぐらの上では、赤い蛇の目傘を背景に、太鼓叩きと音頭取りがシテナ踊りの音頭を取り、やぐらを囲んだ大きな人の輪が右へ左へ踊る様子は、鳥浜が伝えてきた文化を感じる美しい風景でした。

「若狭町の日」

8月11日、プロ野球独立リーグ（BCL）の福井ミラクルエレファンツ対石川ミリオンスターズの公式戦が、美浜町民広場野球場で開催されました。

この日は「若狭町の日」として、町の観光PRや特産品の販売も行われました。

開会式では美方高校の合唱部が国歌斉唱し、始球式を森下町長が務めました。合唱部部員は開会式後、「緊張したけれど上手く歌えたのでよかった」と、笑顔をみせていました。

試合は、13-9で福井ミラクルエレファンツが勝利をおさめました。

国歌を斉唱する美方高校合唱部のみなさん

始球式で投球する森下町長

ふむふむ古墳

8月31日、瓜生地区地域づくり協議会の教育文化部が、地元の中学生3年生を対象に「地域の宝学習会」を行いました。参加した18名は、日本に現存する前方後円墳は5400基あり、そのうちの7基が脇袋にあるということや、大きさや古墳の種類などの話を脇袋の杉谷幸一郎さんから聞き、周辺にある古墳へ移動しました。

全長80mの上ノ塚古墳の上に登って前方後円墳の形を見下ろし、中塚古墳、糠塚、西塚古墳の現状などを学び、周辺の畑にある土器の破片を手に取っていました。参加した生徒は「近くにあるのは知っていたけれど、とても身近に感じることができた」と、“地域の宝”をつかみ取ったようでした。

吹奏楽～競演～共演

8月11日と25日に、パレア若狭でそれぞれ行われた上中中学校・三方中学校吹奏楽部の定期演奏会。3年生とっては最後の演奏会、1年生にとっては入部から3か月の節目の演奏会。それぞれの思いを胸に、精一杯の演奏をしました。

18日には、パレア若狭主催の「ブラスフェスタ」が行われ、両校と美方高校、京都の大谷中・高校の生徒が合同で演奏をし、大勢の観客が夏の午後のひとときを楽しみました。

どの演奏会も、テレビやインターネットで人気の曲などを織り交ぜながらも、本格的な曲目を演奏するなど趣向を凝らし、演奏者と会場が一体となって楽しんでいました。

ブラスフェスタ

両中学校の定期演奏会で賛助演奏をした若狭ウィンドアンサンブルの皆さん

三方中学校

上中中学校

女性の会夕涼み＆きらやま子ども納涼祭・作品展

台風15号の影響が心配された8月31日の夕方、「若狭町女性の会主催の夕涼み会」と「きらやま地域づくり協議会」主催の子ども納涼祭・趣味の作品展が、勤労者体育館と中央公民館で同時開催されました。

途中から土砂降りの雨に見舞われるあいにくの天気でしたが、体育館内には常に200人ほどの人が出入りして催しを楽しみ、雨音に気がつかないほどの熱気に包まれました。

女性の会夕涼み会は毎年三方庁舎と上中庁舎とを交互に会場にして開催され、今年で5回目を迎えました。会場はバルーンアート、五湖鶴太鼓、スコップ三味線、フラダンスなど、町内の女性が次々とステージに立ち、会場には親子連れや、子どもさんを囲んだ家族の姿が多く見られました。外ではテント屋台が青年会、商工会青年部の協力によって出店され、にぎやかさを加えていました。

また、きらやま地域づくり協議会からは、昔の遊びを体験するけん玉やコマ回しなどのコーナーも設けられ、子どもたちが熱心に挑戦し、大人顔負けの技術を披露する姿も見られました。

中央公民館のホールには、三方公民館で活動する趣味の会や、地域の住民が作ったパッチワークや絵画、書などが所狭しと展示され、集まった人たちはそれぞれの作品に見入っていました。

締めくくりには、主催者、協力者、来場者が一つの輪になり盆踊りを楽しみ、人と人のつながりが、体育館いっぱいに広がる心温まる催しになりました。

※きらやま地域・・・三方小学校区

若狭のちはや

8月7日、全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会の優勝報告会が、三方庁舎で行われました。7月27日、28日に滋賀県の近江神宮で開催されたこの大会の個人戦B4級で、南前川の坊亜沙美さんが、見事優勝を勝ち取りました。

森下町長が「次世代の輩出もお願いします」とお祝いの言葉をかけ、お祝い金と福井梅の白干し梅を手渡しました。

坊さんは「優勝が決まった時はびっくりして、嬉しかった。たくさんの人が応援に来てくれた。優勝できてよかったです」と顔をほころばせていました。

剣士 いざ、全国へ！

8月12日、全国大会へ出場選手する三方中学校剣道部の選手激励会が、三方庁舎で行われました。

激励会では森下町長が「暑い季節なので体調には十分に気を付けて、目標に向かって頑張ってください」と激励し、激励金と福井梅の白干し梅を選手たちに手渡しました。

大将の二本松咲季さんは「チームで繋いで、最後は笑って終われるようにがんばりたい」と力強く抱負を語りました。

いつまでもお元気で！

8月22日から9月2日の間に、高齢の方々のお宅に森下町長が訪問し、長寿のお祝いを手渡しました。対象者は88歳が102名、95歳が18名、100歳以上が10名の合計130名。

今年の11月に100歳になられる藤井の中川石松さんは大正2年生まれ。郵便配達の仕事を30年続け、今でも町内にたくさんの友人知人がいらっしゃるそうです。

中川さんは、社会福祉協議会「泉」のデイサービスに毎日出かけるそうですが、「何より、人を笑わせ自分も笑うことが大好きや」と、笑顔たっぷりに話してくださいました。朗らかですね、と言うと、「笑顔は人にもらわんでもええ。人にあげんでもええ。自分の胸にあるもの」と、答えてくださいました。

中川石松さん

100年の歳月には出兵もし、たくさんの経験を経られたそうですが、「自分をぐっと持てば、ええことも悪いことも自分で仕分けができる。ええことを自分のものにしたらええ」と、あふれ出る言葉には、思いをしっかり持って来られたからこその教訓が込められていました。

6月に88歳になられた安賀里の橋本シゲ子さんは大正14年生まれ。にっこりと微笑んで「私は話を聞くのは好きやけど、話をするのは苦手です」と言いながらも、毎朝30分の散歩のこと、週一回のパレアのデイサービスのこと、いろはかるたを二つも作ったことなどを話してくださいました。

「いつもパレアに行かせてもろて感謝しとります。家族にあんじょうしてもろて感謝しとります」という言葉に、森下町長も「今年もお邪魔した高齢者の方々は、皆さんそろって『感謝』という言葉をおっしゃいますなあ」と、改めて、長寿の秘訣は『感謝』かもしれないと会話が弾みました。

橋本シゲ子さん

家では横になっていることが多いので、認知症にならないようにと行き始めたパレアでは、漢字合わせやクイズ、リハビリ体操を、同級生の三人の方と同窓会のように楽しんでいるそう。

とてもにこやかで温かいお二人の笑顔に、森下町長も終始にこやかな訪問となりました。

南前川送り盆

8月16日、夕暮れ時の南前川集落センター。太鼓と笛の録音音声が軽乗用車の屋根上スピーカーから流れていました。

1人また1人、静かに人が増えていき、準備された松明を手に歩き始めます。いつの間にか流れていた音声に人が吹く笛と太鼓が加わり、家族連れ…親戚連れ…ずらりと松明行列に。

踏切を越えて下り、梅街道脇の水路で松明を置いて手を合わせます。

静かな静かな盆の送り。田名・向笠の山が、薄いピンク色の空の下に広がっていました。

海士坂送り盆

海士坂の送り盆は、毎年8月20日に行われる伝統行事です。

大蔵寺での法要の後、人々は手づくりの松明を持ち、遠土地（おおとち）川まで歩いて向かいます。1m先を見通すのも困難な暗闇の道。すれ違う人同士が「こんばんわ～」と挨拶を交わします。相手が誰なのか確認できなくても、声をかけ合います。

送り火の後には、山の端馬場（はなばんば）という広場に組まれた約5mの人形に火が入ります。笛や太鼓の音、唱えられるお経に乗って、ご先祖様が空へと帰っていかれました。

上瀬住宅団地

8月31日、上瀬住宅団地造成工事の起工式が造成予定地で行われました。

来春完成予定の町営住宅団地。多くの次世代の方の定住が期待できそうです。

起工式には、森下町長、藤本若狭町議会議長、施工会社の代表が参加し、工事の安全を願いました。

灯りに浮かぶ町並み

8月13日から15日まで、熊川宿の中ノ町から上ノ町にかけて「街かど陶の灯り展」が開催されました。

パレア若狭の陶芸教室「どろんこ会」の会員や地元住民が製作した灯籠約140個が並べられ、日が落ちると色とりどりの光が灯りました。星形や丸型の穴から漏れる優しい光で、熊川の町並みは幻想的な雰囲気に包まれました。

ゲートボールで交流！

8月26日、民生児童委員協会と身障者協会の親善ゲートボール大会が、生きいきふれあい館で開催されました。

今年で9回目となる協会同士の対抗試合。今回は約50名の参加者が集い、「がんばれ～！」「もっとこっちやで～！」と声をかけ合いながら、競技を楽しんでいました。

田んぼや畑を数珠つなぎ

— わが家の田んぼや畑、自慢します —

清水 良子（よしこ） さん　（三方・69 歳）

自慢の畑です

「今日は、畑に人参とかぶらと白菜の種をまきました。芽が出るのを楽しみに畑をしています♪」
これからも、まだまだ畑を広げるそうです！

なしたええんや

— わたしのオススメ、教えます —

倉谷 浩成（ひろしげ） さん　（下野木・33 歳）

心菜（ここな） ちゃん（9 歳）、悠生（はるき） くん（5 歳）、

オススメです

「最近、子どもたちと一緒に小浜の漁港へ釣り行ってきました。アジが釣れたんやけど、小さかったんで逃がしてきました…というわけで、僕のオススメは“親子で釣り”！」

広報クイズ

しりとりうずまきクイズ

◀◀◀携帯でアクセス
メールでも応募してネ

■応募方法■

キーワードを解いて、しりとりをしながら右回りにことばを入れてください。5 つあるオレンジのマスの文字をアルファベット順に並びかえると、答えになります。ハガキに答えと広報紙の感想や意見、住所、氏名を書いて、「〒 919-1393 若狭町総務課」（住所は省略可）まで送ってください。電子メールでも受け付けます（soumu@town.fukui-wakasa.lg.jp）。正解者の中から抽選で 5 人に図書カードをプレゼントします。当選の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

締切 10 月 15 日（火）必着。

◇キーワード◇

① 2020 年の五輪開催が決まった都市。
②小浜藩の行方久兵衛が奉行として開削した、三方五湖の水月湖と久々子湖を結ぶ人工の水路は？
③西洋風の料理や食事は「洋食」。では、日本料理や日本風の食事を何と呼ぶ？
④ 10 月 6 日の「熊川いっぷく時代村」が行われる会場。
⑤今年でデビュー 35 周年となる「サザンオールスターズ」のリーダーでボーカルを担当する人の名前。
⑥国は国会議員、町は町議会議員、では、県は？　〇〇〇〇議員
⑦安賀里の諦応寺にある大木に彫られた十一面観音は何と呼ばれている？　〇〇〇〇観音
⑧英語で「PUSH UP」と呼ばれる腕力などを鍛える筋力トレーニング。

【ヒント】
国や県、町の取り組みに対して意見や要望、苦情などはありませんか。
《答え》10 月 21 日～ 27 日は、
〇〇〇〇〇相談週間

①	C			②	
		E		⑥	
⑤	⑧	D		A	③
			⑦		
				④	B

●前回の答え「ｱｵﾘｲｶ」①ｹｲﾛｳ②ｳﾏﾉﾐﾐﾆﾈﾝﾌﾞﾂ③ﾂｷ④ｷｮｳﾘｭｳ⑤ｳｶﾝﾑﾘ⑥ﾘｵﾃﾞｼﾞｬﾈｲﾛ⑦ﾛﾐｵ⑧ｵｾｱﾆｱ

HAPPY BIRTHDAY

3歳でーす

このコーナーでは、10 月に 3 歳を迎える町内にお住まいのお子さまに登場していただいています。
なお、ご応募いただいた方のみ掲載しています。今回は平成 22 年 10 月生まれの 3 歳になるお子さまです。

◀尾崎　勝歩（しょうぶ）くん
10 月 1 日生まれ（杉山）
親：晃一・恵里さん
団子作り大好き★
たくましいお兄ちゃんです

◀新田　藍士（あいと）くん
10 月 1 日生まれ（井崎）
親：哲也・京子さん
お友だち大好き♪
クルマ大好き♪

◀田中　稟菜（りんな）ちゃん
10 月 8 日生まれ（神谷）
親：隆・鈴子さん
弟のお世話頑張ってるよ！
保育所も楽しくて大好き♪

◀江戸　心彩（こいろ）ちゃん
10 月 9 日生まれ（横渡）
親：祐輔・理恵さん
歌とダンスが大好き♪
いつも家族を笑顔にしてくれます

◀大塚　仁音（じんと）くん
10 月 13 日生まれ（高岸）
親：佳史・佳子さん
おもちゃで遊ぶのが大好き！
優しいお兄ちゃんになるよ★

◀川合　玲皇（れおん）くん
10 月 13 日生まれ（上瀬）
親：徹・久美子さん
毎日元気いっぱい★
みんなこれからも仲良くしてね♥

◀松宮　一輝（いつき）くん
10 月 15 日生まれ（瓜生）
親：克也・めぐみさん
はいきんまんとだだんだんが
大好きないたずらっ子です

◀澤　心花（このか）ちゃん
10 月 17 日生まれ（岩屋）
親：啓史・直子さん
おかあちゃん、いつも大好き♥
おとうちゃん…、ときどき好き

◀藤本　琉生（るい）くん
10 月 27 日生まれ（熊川）
親：雄士・直子さん
三歳になりました。
キョウリュウジャー大好き♪

Health and Sport Day

次回は平成 22 年 11 月生まれのお子さまが対象です。
写真と 25 字以内のコメント、生年月日、ご両親のお名前、連絡先を添えて総務課または上中サービス室へ提出してください（メールでの送付も可）。10 月 7 日（月）必着です。

●問い合わせ　総務課　TEL 45-9109
電子メール
soumu@town.fukui-wakasa.lg.jp
（受信確認のため、必ずお電話ください）